

(図版①)

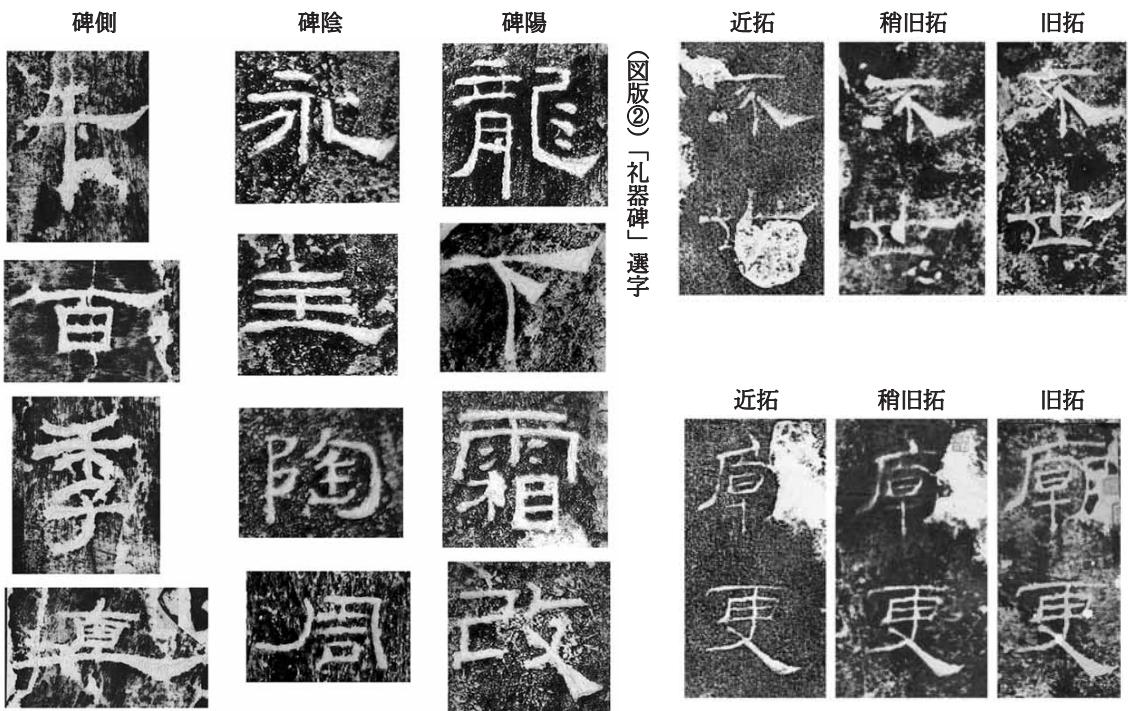


(補字拓本を削除した巻頭の頁)

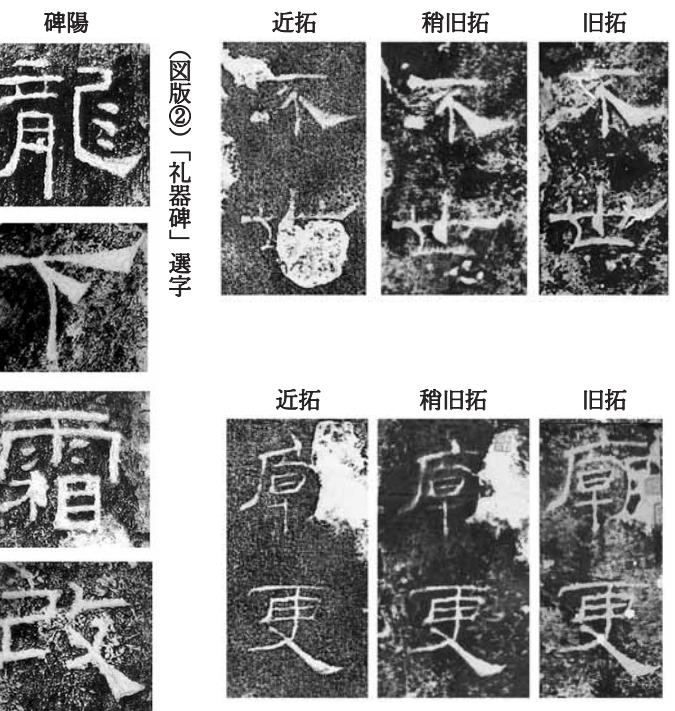
(図版③)



(図版④)「世」字の比較



(図版⑤)「廟」字の比較



『礼器碑』は、隸書の古典碑帖の第一にあげられる。漢代八分隸書の極則ともいわれる。細く鋭い点画で、端正でありながら横画終筆の波磔や右下方の払いなどは、実に大胆で力強い。縦横の細い直線と抑揚の大きな払いなどの点画の組み合わせは、見るものを釘付けにするような魅力を感じさせる。碑陰は、碑陽に比してやや小振りの趣である。また左右の碑側の書は、やや異なり字形は縦長のものもあり、流麗で軽やかである。各面ともにそれぞれ趣を異なる(図版②)。よく習われてきたので、原刻拓本は戦前から多く輸入されていたようであり、手にする機会が多い。しかしこの碑の旧拓本は、なかなか得難い。稍旧い拓本は、碑陽の月部分の点画がほぼ残る(図版⑤)。この部分が第一のキーポイントとされる。この清朝早期の拓とされる旧拓本は、得難い。古書店でなく、神保町に店を構えて盛んに中国に出向かれ文房四宝等を輸入させていた栄豊齋の売り立てで、粗末な糸綴じ剪装本の礼器碑を見つけた。装丁は粗雑であるが拓調は擦拓の古色のある精拓であるが、所々に全く拓調が異なるやや新しい文字が貼付、剪装されていた。「廟」字の月部分が残る旧拓間違いない本であり、譲り受けた。各種の本と比較検討するも旧拓部分は、擦拓の縦に走る拓墨痕跡が鮮やかで、字画は実に生き生きとしている(図版③)。前の所蔵者・天津の白澤培の1962年の書き込みによれば、巻頭の「同治壬申秋七月 礼器碑 小晚香館藏」とある隸書の題記は、小晚香館馨嘉館主(人物不詳)が、同治11年(1872)にやや虫損のある旧拓本を重装した90年前に認めたものであろうと記している(図版①)。白澤培がこの旧拓を得て碑陽、碑陰、碑側の釦字を詳細に巻末の別紙に書き残している。そして虫損や破損で失われた空白部分を釦字しながら近拓本を用いて補ったと想像される。しかし、この帖を手にして、繰り返し見ていると、拓調が異なる近拓の補字部分は、目障りで20數字すべて取り除いた。その後、北京の専門店に持ち込み、上下2冊の折帖に仕立て直してもらい、自ら表紙、書帙を作り、礼器碑旧拓本として活用している。

伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書道芸術院

令和の群像 (2022)



2016書道芸術院秋季展 推薦作家展 「次北固山下」

中 尾 琴 麗 書



中 尾 琴 麗

書との出会いは小学2年生の頃です。私の子どもの頃は鬼ごっこや廻揚げなどとにかく外で元気に遊ぶ。しかし土曜日の午後になるとみんな何かしらのお稽古に行き、残っているのは私と弟。遊ぶ友達がいなく家にいると邪魔だったのでしょうか。隣の子が通う書道教室に行くことになりました。

そこで出会ったのが小林琴水先生です。筆や鉛筆の持ち方・基礎から教えていただき今もご指導を受けています。

大学に進むと恩地春洋先生にもご指導を受けることができました。先生は古典の臨書のいかに大切であるかを常に話されました。そして筆を、ねじってとにかく線は強くと学びました。大学ではそれは品がないと指摘され、毎時間叱られ、どうしたものかとわからなくなりました。今となっては違う書法を学べたことはとても良かったと思います。これまで悩んだり迷いがあると、恩地先生の手ほどきを思い出し古典に向き合いました。

ここ数年のコロナ禍で生活は一変し、学校も様変わりをしました。緊急事態宣言で休校になりオンラインでの授業を余儀なくされ、これまでにない対応に四苦八苦しま

した。対面ではない授業の難しさ、新しい取り組み方に悩み考える日々。休校があけ学校に生徒の元気な顔・声がもどってくると、初めて教壇に立った時のワクワク感が思い出され新鮮な気持ちになりました。

掲載の作品は「2016書道芸術院秋季展推薦作家展」に出品した大作です。3尺×6尺を3枚接いだ大きさですが、それまでこんな大きなサイズの作品に取り組んだことがなく、何かよくわからないうちに無我夢中に書いて終わっていました。今この原稿を書いている時、「第75回記念書道藝術院展」での大作に挑んでいます。またとない機会をいただいた事に感謝し、また改めてよき師・先輩・仲間に恵まれたことに感謝して励んでいるところです。恩地先生からは「考えてることはわかるけど、もうちょっとやなあ」とよく言われました。まだ「もうちょっと」とが何かわかりません。その言葉を思い出しながら、今回はじっくり時間をかけ自分と向き合いながら今ある力を出し切りたいと思い取り組んでいます。

さてどう仕上がるか、不安ですが清々しい気持ちで終わったらと思っています。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

創立75周年記念書道芸術院展
記念展企画「香川峰雲遺作展示」
など盛会に開催

新型コロナウイルス蔓延の影響は新しいオミクロン株の爆発的な流行で日本全国に大きな影響を及ぼし、我が書道芸術院展も一般展・学生展含め表彰式や祝賀会・作品解説会・席上揮毫会・ワークショップなど全て中止せざるを得なかつたが、展覧会は当初予定通り開催できたことは、正に不幸中の幸いであった。

感謝状、そして物故者への偲ぶ言葉集などは後日お送り申し上げることになつてゐる。ご理解を賜りたい。



第1室会場風景

創立75周年記念事業として企画した「香川峰雲遺作展示」は都美会場内に特設されたコーナーに展示され、大きな反響を呼んだ。香川峰雲先生の現代感覚溢れる篆刻そして新しい書芸藝術門として確立された刻字作品の数々は、多くの参観者の共感と感動を呼んだ。ご協力いただいた香川倫子先生をはじめとするご遺族のご理解ご協力、また本企画を立案遂行していただいた後藤大峰常務理事、馨香会三森慧香先生はじめ多くの方々のご協力に深く感謝申し上げたい。

新型コロナウイルス蔓延の影響からやむを得ないことはあったが、一般

2月の本展終了後は3月から記念事業の役員作品全国巡回展がスタートする。全国13の総支局を会場に全国展開される。(別掲47ページ)。会員諸氏のご協力ご支援を切にお願いしたい。

○3、4月の巡回展の予定
・南関東総局展 3月8日～13日
千葉県立美術館(祝賀会などは中止)

・東北総局展 3月18日～23日	仙台メディアテーク (20日祝賀会)
・四国支局展 3月30日～4月3日	高岡文化ホール
安芸市立書道美術館	・北陸支局展 4月8日～10日
・山陽支局展 4月19日～24日	岡山天神山文化プラザ
7 / 7 文部科学大臣賞選考	7 / 6 会員賞選考
6 / 29 会友・公募入選作品搬入	5 / 27, 29 鑑別
7 / 1 (3) 入賞審査	6 / 27, 28 役員作品搬入

第73回毎日書道展主要人事決定

2月7日開催予定であった第73回毎日書道展運営委員会は現下の状況から開催を見送り、書面での提案決定となつた。

本院関係の主要人事・主要日程
・運営委員

半田藤扇(漢)

広瀬舟雲(近)

崎井恵風(大)

板垣洞仙(前)

崎井恵風(大)

下谷洋子(か)

辻元大雲(近)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

平川

峰子(か)

飯沼恵鳳(大)

平邑峰(大)

小池蹊舟(近)

青柳明華(小)

林琴水(大)

後藤大峰(刻)

千葉華紅(福島李舟)

山口仙草(前)

島李舟(前)

山口仙草(前)

下谷洋子(か)

津田海仙(前)

種谷萬城(漢)

佐藤

菜扇(漢)

勝山初美(か)

かな基礎基本講座(22)

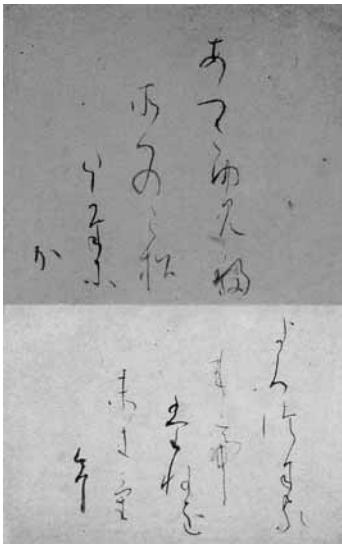
下谷洋子

かなの書式 散らし書き(5)

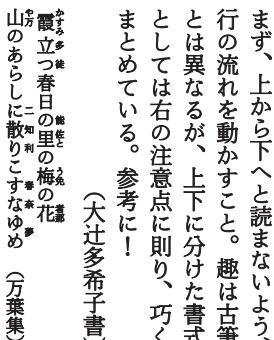
繰色紙による創作への展開 I

三色紙の中で繰色紙は、紙面における展開の方法や頁の構成など他の二つの古筆とは大きく異なっています。平安時代においても他に例を見ない独特の散らしを活用した学書例をあげてみます。

見開き二頁に一首の散らしが基本ですが、今回掲げたのは色紙を一枚継ぎ、上の句と下の句に分けた珍しい形式です。分けた紙の大きさが違う所で、日本人の美意識を感じます。上は四行、下は五行、下の部分の方がやゝ複雑な変体がなが多く強い調子です。



参考作品



まず、上から下へと読まないよう、行の流れを動かすこと。趣は古筆とは異なるが、上下に分けた書式としては右の注意点に則り、巧くまとめている。
参考に！

(大辻多希子書)

あづさゆみいそべ
のこ松たがよにか
よろづよかねてた
ねをまきけむ

※主な注意点
上下の行の位置
関係・行の方向
行間の工夫
行頭・行尾の文
字の使い方
墨継ぎの位置

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座(22)

小竹石雲

〔蘭亭序からの展開〕

【蘭亭序】王羲之 東晉 (三五三)
41名の名士を招き蘭亭にて曲水の宴を催し詩を作った。その席で品として家宝とされた。後に唐太宗が入手し、愛惜のあまり、崩御とともに昭陵に殉葬されたという。

羲之が書した序文が草稿のまま名品として家宝とされた。後に唐太宗が入手し、愛惜のあまり、崩御とともに昭陵に殉葬されたという。

○張金界奴本



○定武本



○定武本



に、王羲之の自筆の蘭亭序がないだけのものを参考にすることでの展開方法がつかめる。ここに左記の四種類を書き分けてみた。

○○○○
○○○○
○○○○
○○○○

○○○○
○○○○
○○○○
○○○○

○○○○
○○○○
○○○○
○○○○

○○○○
○○○○
○○○○
○○○○



○褚摹蘭亭



○神龍半印本



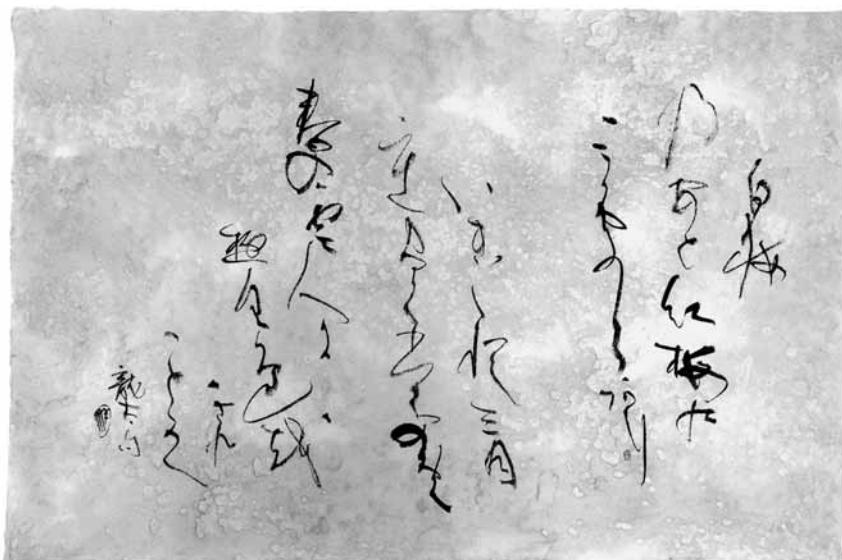
○褚摹蘭亭



○神龍半印本



〈運営委員〉 下谷洋子



〈春の雲〉

64×97cm

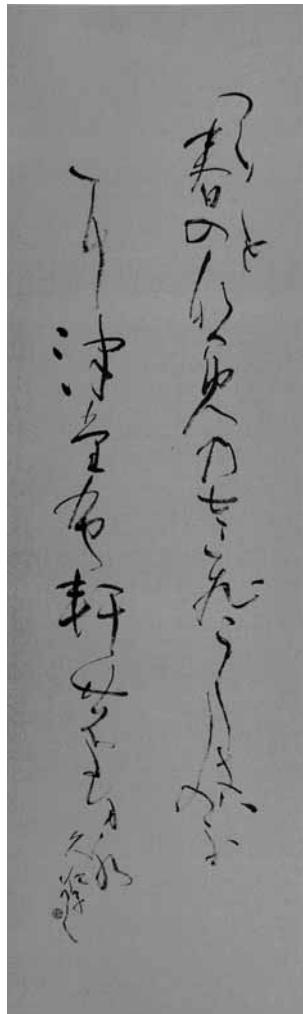
佐藤菜扇



〈黙如雷〉

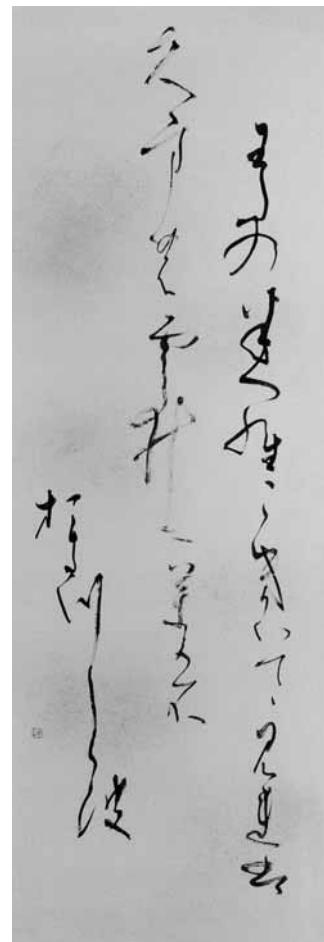
71×129cm

八九



179×54cm

松村くに子



平川峰子

「わたのはら」

春夜喜雨



174×73cm

〈松永貞徳の句〉

飯沼 恵鳳



105×136cm

〈トランピスト修道院〉

小池蹊舟



(35×134cm) × 2

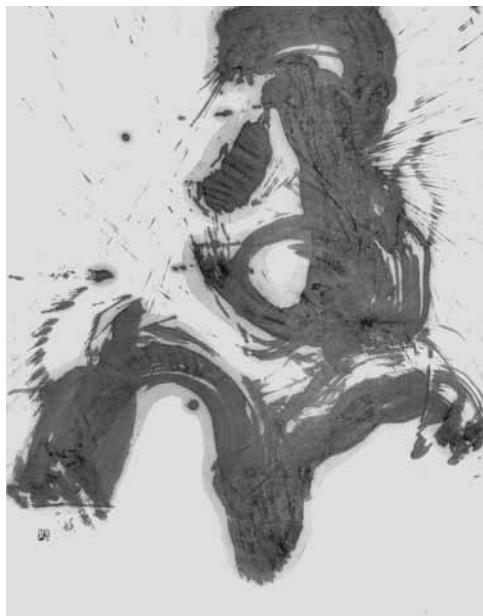
〈赤野四羽の句〉

町山 美扇



97×127cm

〈愚〉



水野春翠

137×106cm

〈溯って〉



千葉華紅

180×79cm

〈瑠春〉



倉林紅瑠

183×80cm

明放



131×100cm

△由美子の句

渡辺柱雲



新進作家展

67×147cm

【書道芸術院関係出品者】

運営委員（か）下谷洋子

100人展（漢）佐藤菜扇・半田藤扇

（か）平川峰子・松村くに子

（近）飯沼恵鳳・小池蹊舟・町山美扇

（大）水野春翠

（前）倉林紅瑠・千葉華紅・柳町祥香

新進作家展（近）渡辺柱雲

①樓蘭晉簡

(大英図書館蔵)

以鶯鈍衆備員。數□事。且下／慙無材。□以報天施。夙夜……

(120%拡大)

以鶯鈍衆備員。數□事。且下／慚無材。□以報天施。夙夜……

(120%拡大)

②樓蘭晉簡

(大英図書館蔵)

以鶯鈍衆備員。數□事。且下／慚無材。□以報天施。夙夜……

(120%拡大)

以鶯鈍衆備員。數□事。且下／慚無材。□以報天施。夙夜……

(120%拡大)

③樓蘭晉簡

(スウェーデン国立民族学博物館蔵)

泰始五年七月廿六日。從／據位張鈞言。敦煌太守……

(110%拡大)

據位張鈞言敦煌太守

泰始五年七月廿六日。從／據位張鈞言。敦煌太守…… (110%拡大)

〈解説〉樓蘭晉簡は、中央アジアタクラマカン砂漠の北東部の湖・ロブノールの北西岸に位置する樓蘭の遺跡で発見された中国晋代(265~420)の木簡である。イギリスの探検家オーレル・スタインが第2次中央アジア探検(1906~1908)で採取した49件は、現在はすべて大英図書館に収蔵されている。さらに、スウェーデンの探検家スウェン・ヘディンが1901年に取得した

121件は、現在はストックホルムの民族博物館所蔵。また、1909年には、わが国の橘瑞超が大谷探検隊第2次探検の折に、5件の晋簡をこの地で獲得している。樓蘭晉簡は、敦煌漢簡や居延漢簡につづく筆資料として重要であり、特に八分隸や章草にかわって、この時代、すでに後世楷行草三体の祖型ともいいうべき書体が実用書として定着しつつあったことを窺わせる点で注目される。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

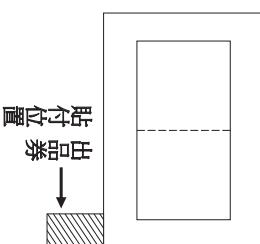
漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

※ 特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙½(約68×68cm)以内も可(縦横自由))

→ご注意!! 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の①・②・③「樓蘭晉簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

(編集部)

※色紙の原寸サイズ 132×84 mm
※古筆は原寸(以上も可)で臨摹

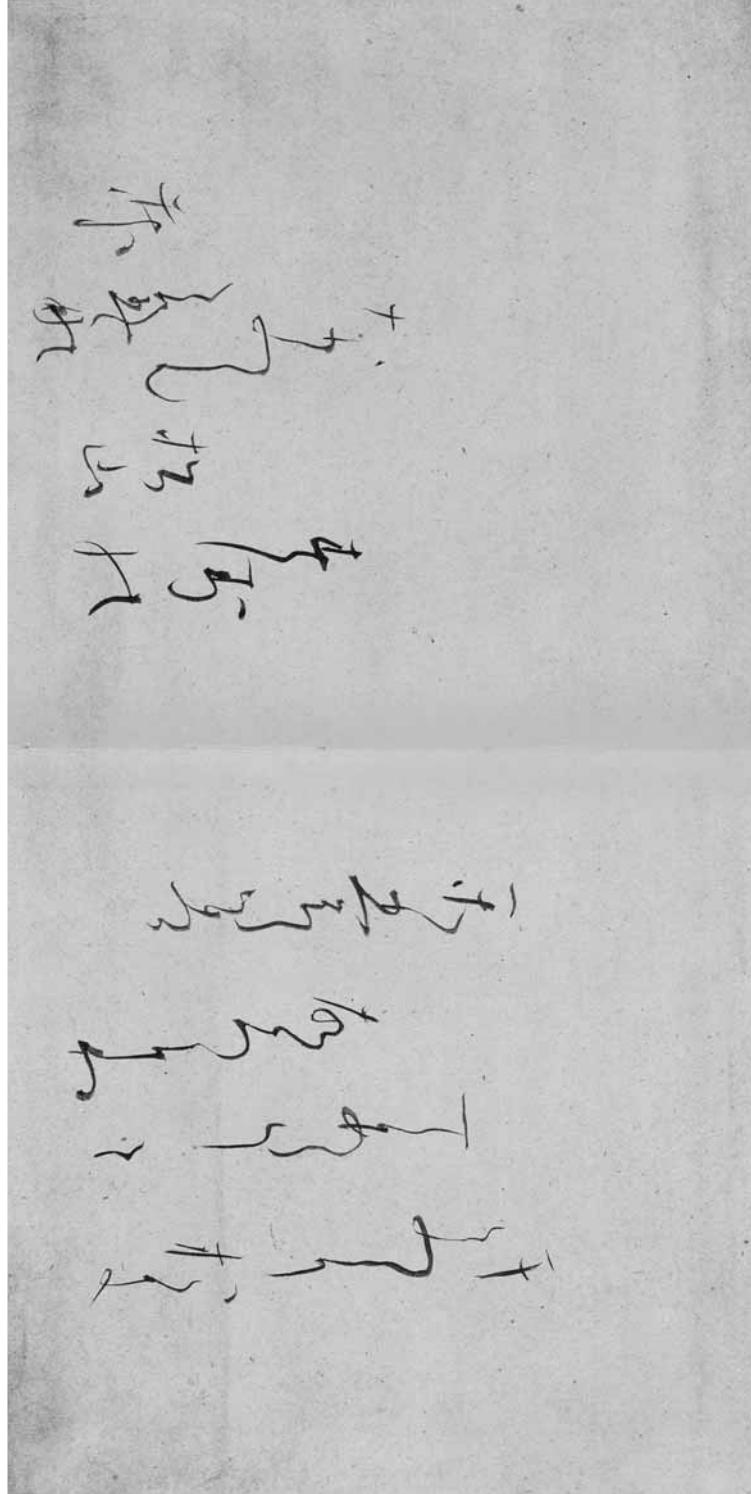


<半紙ヨコ形式に限る>

(嵐山記念館蔵)

い高みを誇っている。(翻訳部)
は平安朝の他の古筆には見られない地よりまさに包まれる。筆者の美意識などに規範を奪われるかのような心庭園の石や流れ、花、風、借景などこれらの形式に、鑑賞者はまるで下句を書いたものなどがある。
外一面一頁を飛ばし次の内面の右頁部を書いたもの④上句を左頁に、
下句を書いたものの③左頁に一首全ても②左頁に上句、右頁に下句を書いた
右頁に上句、左頁に下句を書いた
散らし書きの表現方法として、①
(外面の翻代の頁は空白) は、(内面)にのみ書き散らしてある。
にしたがて内側の見開き部分
粘葉装の冊子本であり、一につり
な構成」があげられる。縦色紙は
<内面書き>と「散らし書きの特徴
縦書き縦色紙の特筆す入べき点として、

<写>※掲載図版・75%に縮小



云 小野道風筆(3)

縦色紙しきじ

古筆鑑賞

26

B.

A.

特別研究部臨書課題

別研究部臨書課題

左記の叶筆の描寫部分の一言を書へ。

B. 小作の部=毎日麗香會員会員以内外×6尺全額も司(著田のまみ司)

A. 大作の部=毎日麗香會員会員以内外×6尺全額も司(著田のまみ司)

左記の叶筆の描寫部分の一言を書へ。

別研究部臨書課題

別研究部臨書課題

半紙普通(横書き)。縦書きに使用

習い方解説 (六)

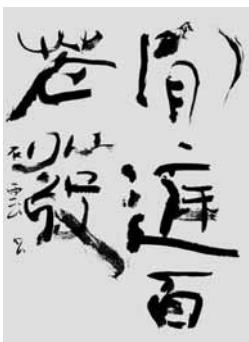
小竹石雲
(良寛)
間庭百花發
(間庭に百花発く)

長く厳しい冬を経て巡ってきた
春の喜びを詠った句で、長い修業の末に悟りを得た喜びを表す。



書体=自由

参考例



隸書は篆書の威厳を保ちつつ、時代の欲求に答えた合理性を求めてあがつた書体で漢碑に代表される。通常的に用いられていたものに帛書木竹簡などがある。清代の隸書はその時代に合った味つけがなされてこれも興味深い。漢隸の風格プラスその時代に溶けこんだものを探るつもりで書いてみた。

漢隸の風格、木簡隸の自由さプラス何紹基をミックスして表現した。

習い方解説(六)

花鳥風月
(花鳥風月)

前田龍雲



孔子廟堂碑

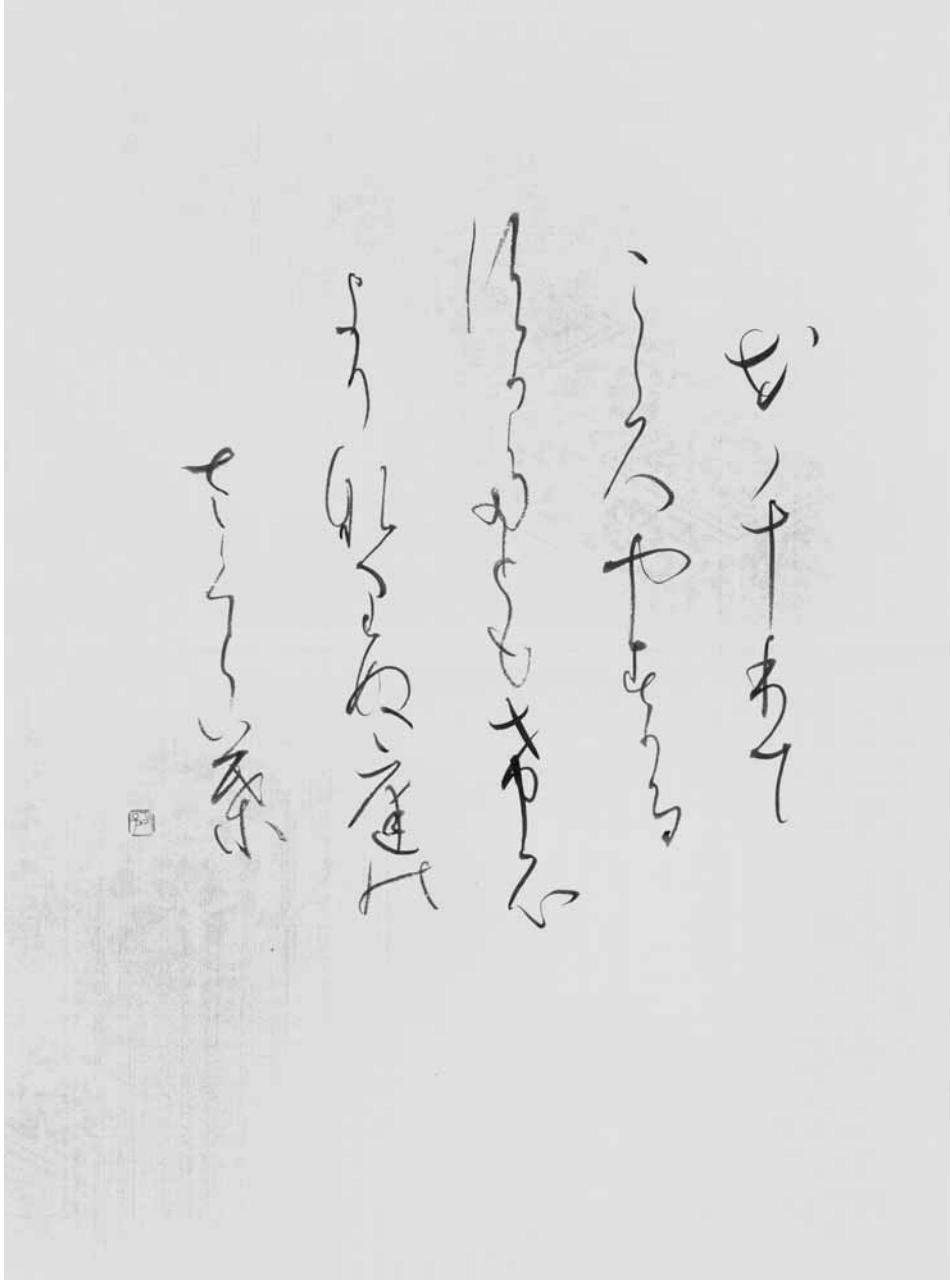
美しい自然の風景やそれを重んじる風流を意味する四字熟語を題材にしました。そろそろ温暖な地域では花も咲き始め鳥の囁りも聞かれる頃でしょう。

初心者にも比較的興味を持ついただき書きやすいであろう、初唐の三大家の1人、虞世南「孔子廟堂碑」の筆法を参考に書きました。字形は胴の部分が少し膨らんだ向勢。起筆は緩やかに、転折はだ向勢。起筆は緩やかに、転折はなりした気分で伸び伸びと運筆しました。素直な線質で爽やかです。

一見弱く見えますが、筆圧がかかるよう筆先を立てて書く注意が必要です。

習い方解説 (三)

石井明子



花ちりでこじるやさかる姿とも
けふよりなりぬにはのさくらば
(大隈言道)

「花が散ってしまって、心安らかな姿に今日からはなった。庭の桜は葉桜になった。」の意。

○大隈言道

江戸末期の福岡の商家に生まれ歌人、書家として知られた。

歌意の理解に始まり、正しく字を書くことを前提に、作品の醸し出す霧廻気について考えてみたいと思います。

「霧廻気を大事に！」は師の永井幸子から度々指摘されておりました。上手、下手ではなく、良い作品だと感じさせる技術とは別の要素のことです、やや論理的に説明しにくいことだと思います。言われたときには言葉としてしか理解できませんでしたが、精神状態や人柄が出るものですね。よい霧廻気のために、せめて良い精神状態で筆をとりましょう。

創作

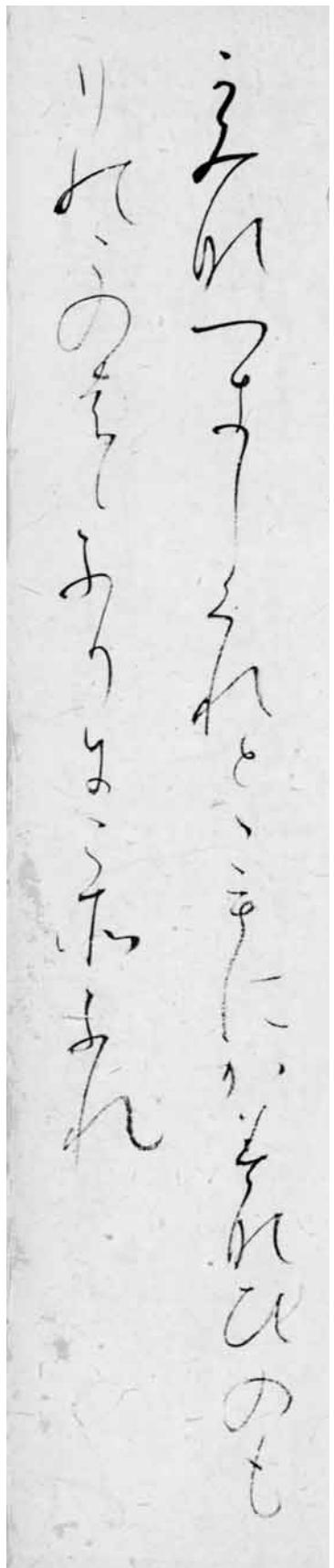
*料紙は半紙版(30×24.5cm)を使用しましょう。

よみ方 花ち(千)り(利)てここ(へ)るや(也)す(春)か(可)る姿(須可多)とも
け(希)ふ(不)よりな(那)り(里)ぬ庭の(能)さく(久)らは(葉)

かな規定 秀級以下【四月十四日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 か(可)みな(那)づき(支)しぐ(久)れとゝも(毛)にかみ(美)な(那)びのも
りの(能)このは(者)ふりに(尔)こそ(所)ふれ

習い方解説 (三)

松村くに子

「美しい山吹の花が咲いている。
笠に挿すのにうつつけの枝が
(松尾芭蕉)

かな条幅規定【四月十四日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書



よみ方 山吹き(支)や笠(耳)さ(佐)すべ(通)き枝の形(なり)

創作

俳句はなるべく変体がなを多用
しないように心掛けて書きました
が、なかなか難しいものです。ひ
らがなでもいろいろな書き方があ
ります。かな字典など参考にし研
究してみてください。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月十四日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (六)

名 越 蒼 竹



石樓臨晴空 南眺出千里 人憐山氣佳 余嘆禹功美 (司馬光「龍門」)
(石樓に臨み、南眺千里に出づ。人は憐れむ山氣の佳なるを。余は嘆ず禹功の美。)

書体=自由

出品券
貼付位置

6回シリーズの今月は横形式への挑戦です。縦形式を書くことが多いため難しく感じてしまいますが、要是慣れの問題かもしれません。墨つけ位置、見せ場の字の位置が同じ高さにならないよう、1行の文字数と字幅を変化させて調整することが大切です。行草書の話ばかりで残念だった人もあるかもしれません。お許しください。

*ヨコ形式に限る

習い方解説 (六)

川 島 舟 錦

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十四日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書



鶯蓬春暖歌聲滑 人遇時平笑臉開
(鶯は春暖に逢うて歌声滑らかに 人は時平に遇うて笑臉開く)

書体=自由

「当たり前にできていたことができないもどかしさ」から、「普通だと思ってきたことへの疑問」を感じはじめ、立ち留まって日々の生活を見つめ直し新たな価値を見つけることに至った。

さらに、今まで書に関わらせていただき、育んでいただいた人間関係に感謝しつつ、今後のことを考える幸福。

耐える時間が長いほど後に迎えるよろこびは大きいに違いないと確信する昨今です。

小林琴水

幸せは、

あなたの心の内にある

それ仏法遙かに非す。心中にて即ち
近し。真如心に非す。身を棄て、
何にか求めん。
(般若心經秘鍵)

求めている大切なものは身近くにある

望みゆ

「仏の教えははるか遠くにあるわけではない。心の中にあって、ごく近いものなのだ。真理は外の世界にあるわけはない、自分の身以外のどこに求めようというのか」空海はそう言っている。「仏の教え」「仏」という語を「幸せ」と置き換えてみて下さい。

幸せは、
あなたの心の内にある
それ仏法遙かに非す。心中にて即ち
近し。真如心に非す。身を棄て、
何にか求めん。
(般若心經秘鍵)
求めている大切なものは身近くにある

空海「黄金の言葉」より

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

弥生 春分 岩手県 宮城県
弥生 春分 岩手県 宮城県

お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます

お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます

大平 邑峰

(楷書) 弥生 春分 岩手県 宮城県
(楷書) お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます

(行書) 弥生 春分 岩手県 宮城県
(行書) お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます

基本用語 「弥生」陰暦3月の別称。「春分」春の彼岸
の中日。昼と夜の長さがほぼ同じになる。
3月21日頃。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 729

漢字部 師範 富澤 白雲
シャープな仮名用筆のリズムを生かした爽快な作。草体を熟知されている技倆をさらに生かしたい。

◎漢字部総評 やや繁画の4文字表現の上級者は、紙面への收まりと変化の工夫が今一步。下級の楷書は構築的な確かさを。(大雲評)

かな条幅部 四段 飯島 律子
3行構成が新鮮。字数が多くなるため文字の組合せが難しいが巧くバランスした。渴筆少々苦しい。○かな条幅部総評 読字は少なかつたが、リズムの扱いに苦慮した様子。文字の大小の捉え方も拡大にして確認するとい。(洋子評)



漢字部 師範 富澤 白雲
強靭な渴筆線が紙面全体を見事に支える。

◎現代詩文書部 総評 線質・構成に鍛度の高い作多数に敬服、反面粗雑さが目立つ作散見。(無極評)



現代詩文書部 特選 鶯山 美梢

構成・潤滑のバランスが冴える

強靭な渴筆線が紙面全体を見事に

支える。

◎現代詩文書部 総評 線質・構成に鍛度の高い作多数に敬服、反面粗雑さが目立つ作散見。(無極評)



前衛書部 特選 鈴木 春江

濃淡墨線の組合せで立体感を表

現。鑑賞者の心の変化で多様に映

し出されるドラマチックな作品。

◎前衛書部 総評 創意工夫・気力溢れる作品多く充実していた。押印位置や大きさ工夫を。(蓮紅評)



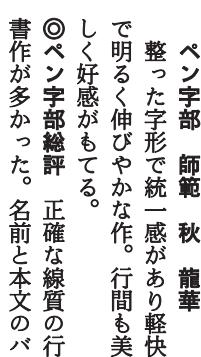
ペン字部 師範 秋 龍華

整った字形で統一感があり軽快

で明るく伸びやかな作。行間も美

しく好感がもてる。

◎ペン字部 総評 正確な線質の行書作が多かった。名前と本文のバランスに注意して見応えのある作品を望みます。(仙草評)



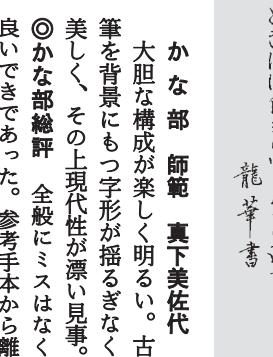
漢字条幅部 師範 横谷 森城

统一感と深みのある隸書作品。

表情豊かで氣力に溢れ、ご自分の

領域を成し遂げて見事に完成。

◎漢字条幅部 総評 20文字を条幅に書き込む難しさ、バラエティーな作風が多かった。古典からの導きを大いに活躍を。(藤扇評)



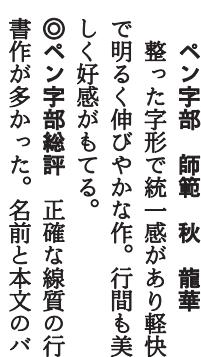
かな部 師範 真下美佐代

大胆な構成が楽しく明るい。古

筆を背景にもつ字形が搖るぎなく

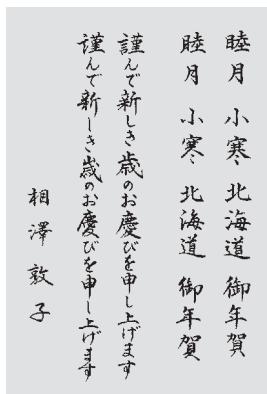
美しい、その上現代性が漂い見事。

◎かな部 総評 全般にミスはなく良いできであった。参考手本から離れて独自の創作の世界へ踏み込む人が増えることを望みます。(明子評)



实用書優秀作品

選評 辻元大雲



特選 相澤敦子
着実、冷静な運筆で安定した作。
線ののびやかさもあり佳作。

暁月	小寒	北海道	御年賀
睦月	小寒	北海道	御年賀
謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます	謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます	謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます	謹んで新しき歳のお慶びを申し上げます

特選 小峰 美加子

全体として基本的な字形のバランス、構成など未熟な作が多い。基礎基本としての実用細字表現技術は普段からの地道な努力が必要。
（大雲評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 白石和楓 倉林紅瑤

小品の部

臨書 (京橋)
田中一葉
「敦煌漢簡」

前衛書 (白珠)

高原梨秀

「塔」



高原梨秀書

◆中央に五つのプロックをリズミカルに配し、左右にたっぷり余白をとったモダンな作。渴筆と細線のバランスが絶妙。

（紅瑠評）
バランスが
ぶり余白を
ソな作。渴
カルに配し、
つのプロツ

◆ 軽妙な筆致で躍動感に溢れる臨書。創意を加味し、線に表情が加わり、新味ある作品に仕上った。

(萬城評)

◆原本の筆意やリズムをよくつかみ、筆の面の返しや腹の使い方が巧み。微妙な変化の魅力が映し出た。（洋子評）

◆上部は力強い渴筆が残っている。下部の細字は筆端の切れ味良く、充実感が漲り、まとめ見事。（和楓評）

（特選候補者）
漢字

$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$
$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$
$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$
$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$
$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{1}{4}$

臨書
(宗苑社)
茂木繪水
「繼色紙」

部分拡大

分水の
事

135×35cm

A vertical calligraphy piece featuring cursive script characters. Below the main text, there is a signature that reads "林語堂書".

坂本 蓉花
「獣ゆく細道」

70×35cm

創作の部	(39点)
漢字	— 3点
かな	— 4点
現代	— 24点
篆刻	— 0点
前衛	— 8点
臨書の部	(42点)
漢字	— 39点
かな	— 3点

小品の部

誠和
麗澤
千葉
安藤
長谷川
甘雨
石崎
八街
三浦
谷翠
新孝
叙
小樹
大雲
香苑
もく
佐藤
小川
希雲
香煙
澄春
青木
藤浦
華祥
加藤
和榮
「かな」
白珠
相内
珠莉

現代詩文書

(四枝社) 大友 四峰 「直井彩の詩」



大友 四峰 書

60×180cm

部分拡大

◆大字6行は懐広く、適度の墨量のバランスと構成が見事。細字4行は、心配りが行き届き美しい。

(和楓評)

臨書

(千葉) 猪又理扇 「緋色紙」



猪又理扇 臨

35×240cm

臨書

(紅瑠) 金井みどり 「敦煌漢簡」



金井みどり 臨

◆緋色紙の臨書用紙を行い、色味も整わり、堂々とした風格がある。熟達の作。

古雅にして素朴な趣が表出された。

(洋子評)



工藤和香 書

180×60cm

◆超長鋒による筆の開閉をダイナミックに表現し、潤滑の変化も冴え、スケールの大きな作となつた。

(紅瑠評)

前衛書

(一弦) 工藤和香 「萌」

◆木簡書法に習熟し、安定感のある臨書。線に重厚感があり、堂々とした風格がある。熟達の作。

(萬城評)

「漢字」
〔前衛〕「漢字」
〔創作の部〕「漢字」
〔特選候補者〕47点
総出品点数

漢字	— 2点
かな	— 9点
現代	— 3点
前衛	— 13点
漢字	— 14点
かな	— 6点

(洋子評)

創作の部(27点)	
漢字	— 2点
かな	— 9点
現代	— 3点
前衛	— 13点
漢字	— 14点
かな	— 6点

漢字研究部
(行草木簡)

選評 川 島 舟 錦

今月のホープ作品



御園生 芳 瑤

漢字研究部 特選 御園生 芳 瑞
特徴を捉え、よく筆に慣れ親しんでいるタ
チで表現しています。筆の質（長さ、柔ら
さ）や墨の濃淡を変えて書いてみると、線
強さ、深さ、豊かさなど、また違った趣の
書が楽しめるはずです。

漢字研究部 特選 御園生 芳 瑞

特徴を捉え、よく筆に慣れ親しんでいるタップチで表現しています。筆の質（長さ、柔らかさ）や墨の濃淡を変えて書いてみると、線の強さ、深さ、豊かさなど、また違った趣の臨書が楽しめるはずです。

◎漢字研究部総評

①文字の特徴・形をとらえる。②文字を字典で調べる。何度も調べてみる。③その部分

だけを練習するのではなく、法帖2～3ページを書くと、特徴をとらえやすく雰囲気がよくわかります。④動きやリズムを意識しながら書き込む。⑤一字一字ではなく、半紙にまとめる、ということを考える。⑥豊かな線になるまで、リズムをとらえられるようになるまで、たくさん書いてみる。何日も書いてみると、日々の成長が感じられたらしあわせ。

至	建	便
昌	主	愛
縣	手	夏
西	長	治
部	治	府
侯	府	縣
劉	侯	便
令	建	愛
都	主	夏
長	手	治
部	長	府
侯	治	縣
長	府	便
治	縣	愛
部	縣	夏
侯	便	治
長	愛	府
部	夏	縣
侯	治	便
長	府	愛
治	縣	夏
部	縣	治
侯	便	府
長	愛	縣
部	夏	便
侯	治	愛
長	府	夏
治	縣	治
部	縣	便
侯	便	愛
長	愛	夏
治	夏	治
部	治	便
侯	縣	愛
長	縣	夏
治	便	治

鳳松え玉雅桃
り
仙苑奐華秋子

美和弘華美泰

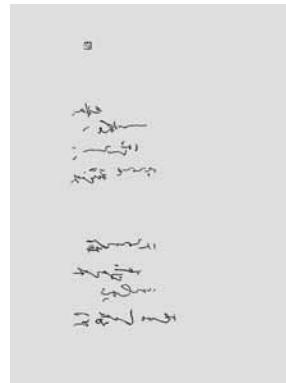
明翠雄美良雅
智
祥玉一惠典悠

照衣子霞楓翔矢

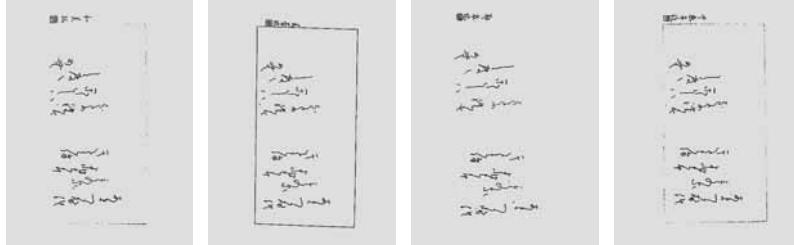
かな研究部 (緑色紙)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



武山花源



和香昌
美舟子

美眞瑠
智砂
恵子翠

耶幹杏
衣生邑

千松芳
恵
子美博

正こ大有水清も
華だ雲秋海月く
秀

大梅磯石飯飯新
湊原貝川泉島井
あか虹清洋洋ミ藤
祥羅子子子

紅瑠佳

藍澤作
白兆

姪仙遊松唯一人
安熱赤青逢
藤海星木沢
美桃文玉唯
麗

玉澄上四晝有紅や清菊大澄書紅椿一椿麗玉う潮こ甲素有
松春泉枝田秋風ま月月雲春泉瑠翠茲翠澤松る音だ和雪秋

青字中塚中高松田境新草字七須大村安富田飯齋小高坂武
木井村田野橋津玉野井刈田五丁島上鳴田中高藤崎千
三木美眞千美シシ美美代哲和恵眞春和香昌智砂瑠耶幹杏恵子芳花
郷麗子翠子子子子華美舟子子子子華美舟子子子衣生邑子美博

竹恵明や八墨石生椿大東上大堺澄竜正澄竹A大大清大竜一うこ蘭白正
原泉漢ま街宣習大翠雲向泉雲春泉華春原I拙雲月阪泉弦るだ鼎こ原珠華

渡渡吉山村真松藤平日昌萩名利高高杉新代清佐驚小小吉工木北川加葛目岡
邊邊田口上庭丸本山高山原取守橋橋浦行田水藤山林林藤村爪崎藤瀬田
タタ登か由内由

美信鶴律佳ケ愛喜つ右芝洋美佳幸雅幸瑞葉紀陽美嘉萩豊和順美優翠恵佳麻

眞代子月ミ石惠子香子紬理苑泉子子子梢江江美香子子子陽美楓美

姪仙遊松唯一人
安熱赤青逢
藤海星木沢
美桃文玉唯
麗

こ昌華幸己黎高竹中華千蓮祥は麗幸晝洞 清A春玄紅千青書明菊正八光煮澄大蒼英東大正玉も渡高た澄春
だ苑仙扇未明崎美川祥葉紅紫せ澤扇田書 月I陽穹風葉峰泉漢月華生彩書春雲陽峰向雲華藻くか井辻か

吉吉山山山矢八三松本船長長野中中中德寺土千田種高鈴島島柴篠櫻坂齋黒熊吉菅河加荻岡大櫻梅植伊石阿
野田本木根崎口木田澤嶋田木谷谷村村江原谷原谷葉烟田橋木 田田木本藤柳井瀬野合瀬原部次沢田津藤田津渡天坊洗草

桜翠美梅百登紀蒼智節美悦久 幸保寛よ淳恵つ陽美森千裕美悦洋美龍里翠竹宏彩静和日玉藤淳和代紅詠翠洗草

佳絞楓香子華江舟舟子子子子江子子城代琳子子子貞美香葉子雨代敬夏藻瓊子子子雨子径

香春高明蘭華八秀了翠玉硯菊樹高春春高千有祥千華白柱わ正華青白蒼梅中白A誠わ久菊了誠幸和花蘭華八高堺正こ高
澤書汀崎漢鼎仙雲歟か吟川水月原崎汀生崎葉秋紫葉仙扇江か華祥蓮驚陽桃川驚I和か賀月か和扇平舞鼎祥街田

須鈴須下清嶋島篠七椎猿佐佐斎近小小黑久刑北菊神川鎌金加小乙押大大江生鶴印岩岩入井井伊市板石石石石五飯
藤木賀田水 田塚條名渡藤藤々藤藤原西沢保部村地田元塚田藤野幡元西島口方澤東渕田崎谷上上藤川垣稿田川十島

萩睦一代幸称貴謙裕光董千綾雅 淑加馨幸都智裕志泰恵典榮ず真雅朱智順一竹茉美琴正祥博董悠洋英悦チ青翠美悦津佳律
心起子子子心美子右秋奈芳功子子子美美美子峰水子仙さ優邦星美子美鳳悠子舟菫花硯二子子鳳峰子子米子

富蓮東無祥華蘭松春幕幽澄華A白若大澄華 長上墨正一千上姫土上青高白姫森泉書遊水春大了泉安惠千清華若上華竹
遷貴紅伯門紫仙 村汀張光春仙I露松阪春祥 月泉縁華弦葉泉路氣泉連琦珠路地会泉雲塹汀阪か会波石葉月仙松泉祥扇

吉遊山山山矢茂富松樹增前堀古藤蘿深樋跡原早林林早浜濱乘野根沼ニ西西永永長永中中樋辻千田玉竹竹高草木井
名田佐本中田口部木野島見田川江谷江井堀口尾澤部 坂野田船村岸田通山川田井井山西泉 葉村沢澤井橋木千

ノ紅真清 雪翠翠華瑛幸美し智清玉は典 洋美聖ふ陽抱奈正奎麗葵美真時伯久悦知恵雪洋紅恵幸恒香美代昭小
名リ雅紀玉京翠苑芳枝舟風秀仙泉子子子洗葉る子朗子子朋で一花々子心子龍子由子泉仙子子子薑子雲石子子華子

かな研究部 特選 武山花源

八澄
街春

阿
天坊

明
佳

知
園

サ
子

昭
秋

小
秋

代
秋

昭
秋

◎かな研究部総評
漢字の修練を相当に積んだと思われる「緑色紙」の作者の特徴は際立っています。かなの曲線と直線的な線に戸惑う部分がありました。模して臨書

ズムを捉える線質の表現がしっかりとでき、見事です。切らさず運筆しています。また、切れでは統ぐり

しましよう。

●篆刻

【四月十四日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む誰も出品可。

- ①篆刻 (ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出典の際、原印のコピー添付)

- ②創作 語句自由

〈原印コピー〉



趙之謙 (清)

「竟山」

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和四年二月二十五日印 刷 行
行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七三二号

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七三二号

(篆刻)	
高真	特選 鶴淵亞希
鶴淵	特選 鶴淵亞希
秀作 (50音順)	佳作 (50音順)
北日	大雲
大雲	北日
生天	小沢
吉原	成田
能喜	華仙
進	進
丸山	入選 (50音順)
加藤	佳作 (50音順)
妙子	秀作 (50音順)
(選外なし)	北日
生天	吉原
四慈空映	唯一大枝空映
中塚坂本金谷	唯一
島田義則	翠山洋一
富見京橋	遊雲入選 (50音順)
野木川口	荒川赤星
(選外なし)	天峰隆文

(創作)	
石心	特選 大沼樵峰
大沼	特選 大沼樵峰
秀作 (50音順)	佳作 (50音順)
佐々木	佐々木
藤本	藤本
篠田	篠田
青霞	青霞
龍仙	龍仙
絢麗	絢麗
華所	華所
祥花	祥花
香雨	香雨
富見京橋	遊雲入選 (50音順)
野木川口	荒川赤星
(選外なし)	天峰隆文

3月号 篆刻課題

- 印面の大きさは3.4cm (八分角)以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
○創作、篆刻とも応募は一人一点。

<特選>



「無須吳」

篆刻

729号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

創作



「初歲」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田一ー一六一七
東神田プラザビル三階
公益財団法人書道芸術院

電話(03)3861-1954

FAX(03)3861-1957
※お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

コロナ禍の中、当分の間十時～
十六時に時間の変更しております。

一部～9部までの一回の郵送料
1部～9部まで
1部の購読部数が
1部
2部
3部
4部
5部
6部
7部
8部
9部
10部以上は
送 料
79円
95円
103円
119円
135円
151円
167円
183円
199円
送料免除

令和四年二月二十五日印刷
令和四年三月一日発行

定価 一部 七五〇円

発行人 辻元洋一 (大雲)

印 刷 株式会社 リンクス
アーツ

発行所 公益財団法人書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田一ー一六一七
東神田プラザビル三階
電話(03)3861-1954

FAX(03)3861-1957
振替 00150-41-350558
ホームページ http://www.lms.co.jp/shopgai/